睦月（むつき） 第683号

むなかた

目次

年頭挨拶 2
宮司 4
福岡県知事 5
宗像市長 6
沖ノ島祭祀 7
平成ノ大造営 7
新授与品『神水守』 7
宗像大社歌会詠草 7
御造営奉賛者御芳名 7

よてす・本年は、戊戌年。十二支は本来、時刻や方角、月を表すものとして用いられ、覚えやすくするために動物等を当てたものである▼犬と言えば、神社の境内に入ると一般的に狛犬が見られる。参道の両脇や本殿の中に、左右一対に置かれ、「阿吽（あうん）」の形をしていることが多く、神域の魔除けや守護の意味がある。狛犬は仏教とともに日本に伝わったと言われる。当社所蔵の石造狛犬は鎌倉初期に宗の国から渡来した。木造狛犬は鎌倉時代か室町時代の日本の作とされ、他の狛犬では見られない力強さと形に特徴がある。京都御所の清涼殿にある天皇の御帳台の四隅にも、魔除けとして狛犬が置かれている。京都御所では歴代の天皇が即位を行い、昭和天皇まで即位に関る一連の儀式を行った▼今年は、天皇陛下が御即位三十年をお迎えになる慶賀の年でもある。昨年、御退位・御即位についての改元期日が政府機関より発表された。現憲法のもとではじめてとなる御譲位による御代代わりに際し、関連する祭祀・儀式・行事などが滞りなく執り行なわれ、後世の良い指針となるよう万全を尽して取組んで頂きたい。（杉）

海の再生 竹漁礁沈め

第4回宗像国際環境100人会議（昨年）

宗像大社宮司
葦津　敬之

自然

昨年は世界文化遺産の登録、天皇皇后両陛下の御参拝という大社にとって歴史的な佳節の年となったが、今年は何を目指すかが問われる年となる。神社はそれぞれの時代において「公共性」が探求され、先人たちは時々の社会に迎合することなく、信念を貫き実践してきた。当然、歴史の中では公私がぶれたものもあるが、判断を誤ったものは自然淘汰されている。

神社神道は日本独自のものであると同時に、それは一神教以前に世界各地にあった自然崇拝と通ずるとされている。そのためあらゆる自然にも神々が宿るとする考え方は、近年、人類の私欲を抑制する力があるとして国際的にも高く評価され、当社においても海外からの要請が増えている。

昨年の九州北部豪雨では一日の雨量が1000ミリとなり、記録的な大雨が短時間に集中し甚大な被害となったが、その原因は温暖化によるものではないかとされている。近年の玄界灘では夏場の海水温度が三十度まで上昇、沖ノ島の海底にはサンゴ礁と熱帯系の魚まで生息しはじめている。温暖化は人類の私欲から生まれたものであり、経済を優先するあまり生態系のバランスを欠いてきたことは言うまでもない。

人類が生きていくために最も大切な自然に神々が宿るとする考え方、神々が棲む自然への畏怖畏敬の念は、古いようで新しい、私たちが今直面している大きな課題でもある。宗像では五年前より神々が宿る豊かな海を再生しようとの取り組みがはじまり、第三十七回全国豊かな海づくり大会を契機に「海の鎮守の森基金」が立ち上がり、海の再生を国内外にさらに呼び掛けることとなった。

そのため宗像大社においては、天皇皇后両陛下の御参拝記念日の十月二十九日を本年より「豊饒祭」と称し、海、山、川、田畑などを豊かにするための祭日とし、祭りによって心を一つにして自然環境の再生に取り組むこととなった。かつての日本人は多くを語らず、神前にて自身の決意を表明し「不言実行」であったが、豊饒祭にはそのような気持ちも込められている。

末筆ながら、新年を寿ぎ、引き続き、先人たちの叡智を歴史から学びつつ、皆様には本年も神社の進むべき道のご指導を賜りたい。

第37回全国豊かな海づくり大会式典

天皇皇后両陛下沖ノ島出土国宝御覧

福岡県知事
小川　洋

り守

あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、皆さまご存じのとおり、昨年七月、かねてからの念願であった「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界遺産登録が実現しました。

これまで、宗像大社を含む本遺産群の世界遺産登録に向けて、格別のご理解とご協力を賜ってまいりました、宗像大社および地域の皆さまとともに、改めてこの喜びを分かち合うとともに、日ごろからのご尽力に対し厚く御礼申し上げます。

本遺産群の世界遺産登録につきましては、平成二十一年一月にユネスコ世界遺産暫定リストに記載されて以来、皆さまとともに、約九年にも及ぶ取り組みを行ってまいりました。登録前のユネスコの諮問機関であるイコモスの勧告では、沖ノ島と周辺岩礁のみの登録が適当であるといった厳しい内容でしたが、ポーランドで開催された世界遺産委員会では、八つの構成資産全ての登録が決定するという最高の結果となりました。これも、皆さまのご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

また、昨年十月には、天皇皇后両陛下が、「第三十七回全国豊かな海づくり大会」の式典行事御臨席の折、宗像大社を視察されました。両陛下は、辺津宮に参拝された後、鏡などの神宝を大変興味深く鑑賞されました。私も、沖ノ島が持つ歴史、価値について改めて実感いたしました。

世界遺産とは、国や民族を超えて人類が共有すべき遺産であり、かけがえのない財産として次の世代に受け継がれていくべきものです。

今日まで、宗像大社をはじめ、地域の皆さまによって守り伝えられてきたこの素晴らしい遺産を、確実に将来に引き継いでいくため、昨年十月、県、宗像市、福津市、宗像大社の四者で構成する保存活用協議会を設立しました。今後は、当協議会を中心に、これまで以上に、世界遺産としてふさわしい資産やその周辺環境の整備と保全、広報啓発活動に取り組んでまいりますので、今後とも、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

新しい年が、皆さまにとって希望あふれる年になりますよう、心から祈念いたします。

第41回世界遺産委員会 ポーランド

宗像市長
谷井　博美

む　育

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことと、謹んでお喜び申し上げます。また、日頃より宗像市政に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は長年の念願であった「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の世界文化遺産登録が決定しました。本遺産群の登録にあたっては、宗像大社の皆様、また多くの関係者の皆様から様々な形でご支援、ご協力いただきました。改めて、厚くお礼申し上げます。

また、十月末に開催された「第三十七回全国豊かな海づくり大会福岡大会」では、宗像市有史以来、初めて本市に天皇・皇后両陛下をお迎えし、宗像大社辺津宮へも御参拝いただくという記念すべき年となりました。

本年は世界遺産のあるまちとしての新たなスタートの年でもあります。世界遺産となったこの貴重な遺産群を将来にわたって守り伝えていくという責務を果たすため、保全・保護の体制を確立してまいります。また、宗像大社をはじめ、世界遺産となった構成資産の魅力をより多くの方々に知っていただけるよう、情報発信にも力を入れてまいります。そして、本市を訪れる皆さまに、宗像の魅力を存分に満喫していただけるよう、市をあげておもてなしの心でお出迎えし、これを地域の活性化につなげられるよう努めてまいります。

さらに、古来より本市で形成されてきた豊かな歴史・文化資源を保全し、次世代に継承していくために宗像大社を中心とした本市の良好な景観の形成、そして子どもたちに地元宗像への誇りと愛着を持ってもらうための世界遺産学習の推進に取り組んでまいります。

これらのことを実現していくためにも、宗像大社におかれましては引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

末筆ながら、本年が宗像大社にとってより一層のご繁栄の年となりますことを祈念いたしますとともに、皆様にとっても、本年がより良い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

沖ノ島祭祀 4

――神祭りのかたち――

國學院大學　神道文化学部教授　笹生 衛

沖ノ島の祭祀遺跡では、どのように神を祀っていたのだろうか。現在、一般的に、発掘調査の成果から、神祭りの場と祭りのかたちは、次の四段階で変遷したと考えられている。

この島の神を象徴する巨岩群の上の「岩上祭祀」から「岩陰祭祀」へ。そして「半岩陰半露天祭祀」となり、巨岩群から離れた場所で行う「露天祭祀」へと変化したとの説明である。これは、祭祀で捧げ、使った品々が出土した場所は、祭祀を行った場であるという判断にもとづいている。果たして、そう判断してよいのだろうか。

人間は、自然環境の特別な働きに「神」を感じ、人間と同じ姿・性格を直観的にイメージする。これは、我々の脳の認知の働きといわれている。だから、人間は、神へ自らが貴重とする品々を捧げ、美味しいと感じるご馳走を供え拝礼する。礼を尽して願い事を申し上げれば、神は返礼として願いを聞き入れかなえてくれる、と直観する。これが、祭祀の基本的なかたちである。沖ノ島の最も古い祭祀も同様で、当時、貴重な大形の銅鏡、美しい緑色の石製の腕輪などが捧げられたのだ。

この祭祀のかたちで、祭祀遺跡を見ると一つの疑問がわいてくる。沖ノ島の祭祀遺跡の中には、捧げ物とご馳走を並べ、礼を尽くした祭祀を行うには狭い遺跡もあるということだ。例えば、初期の岩上祭祀の代表的な遺跡、一七号遺跡では、巨岩と巨岩の隙間に鉄製の刀剣、銅鏡、緑色の碧玉製の腕輪類、翡翠製の勾玉など、豪華な捧げ物が差し込まれた状態で出土している。しかし、周囲は岩場で平坦な場所は殆どない。多くの人々が拝礼するような空間を確保するのは難しい。巨岩群の上や岩陰に残る祭祀遺跡は、祭りの姿を、そのまま残したものばかりとは言いにくいのだ。一七号遺跡の銅鏡などが出土した様子は、神前へと整然と捧げたというよりは、祭祀の後、捧げ物をまとめ納めた状況とみたほうが理解しやすい。

こう考えると、次のような神祭りの流れが推定できる。沖ノ島の神を象徴する白い巨岩群。これを見上げる場所、しかも様々な捧げ物・ご馳走を整然と並べ、祈願を申し上げ拝礼するのに充分な広さが確保できる場所で祭祀は行われた。その後、貴重な捧げ物は神のもとへまとめて納めるという意味で、巨岩の隙間に差し込まれたり、岩陰へと安置されたりした。このようにして最終的に祭祀遺跡となったものが、沖ノ島の祭祀遺跡には多く含まれているように思われる。

17号遺跡の遺物出土状況

平成ノ大造営

沖津宮社殿修復

平成二十五年より着手された「平成ノ大造営」は、宗像三宮の整備事業であり、本年の主なる事業は沖津宮(沖ノ島)社殿修復である。

沖津宮本殿修復に先駆け、昨年十一月十六日には沖津宮末社 大神宮の仮殿遷座祭を斎行、現在は大神宮の修復を行なっており、完了後本殿修復に取り掛かる。

沖ノ島は、出土した八万点の国宝が物語るように、社殿構築以前、神が宿るとされる岩や木などを敬う自然信仰から現在の社殿祭祀に至るまでの過程が分かる稀有な場所である。

昭和５年５月10日内務省撮影

ではいつ社殿が出来たのか、その存在を示すのは宗像家文書にある。正保元年(一六四四)に「沖津宮遷宮」の記述があり、十七世紀半ばには社殿が建てられていたようである。この時期の社殿は福岡藩によって造営。その後、建て替えや修復を繰り返しており、現在の社殿は昭和初期に建てられたものである。

主なる修復状況		
正保元年	一六四四	遷宮、甲斐河野四郎右衛門尉通利、宗像忌子惣左衛門千續等とともに奉仕す ※社殿が確実に存在することを示す初見史料
寛文二年	一六六二	御供屋屋根を葺替ふ
宝暦八年	一七五八	本殿の屋根を葺替ふ
明和八年	一七七一	本殿の屋根を葺替ふ
文化十三年	一八一六	本殿・渡殿・拝殿屋根葺替え。 また同宮末社大神宮を造替す
安政三年	一八五六	本殿を修理す
明治二年	一八六九	福岡藩、本殿・渡殿・拝殿・御供屋及び遙拝所(大島)を改造す
明治十六年	一八八三	拝殿・渡殿の屋根を官費にて葺替へ、神饌所を官費にて修繕し、宿直所を官費にて増築す
明治三十三年	一九〇〇	本殿の修理に着手す
明治三十四年	一九〇一	本殿の修理竣成す
明治四十五年	一九一二	本殿の修理に着手す ※従前の板葺から檜皮葺に改める
大正二年	一九一三	本殿の修理竣成す
昭和六年	一九三一	神殿・拝殿改築のため仮遷座祭執行す
昭和九年	一九三四	社殿屋根葺替へのため仮殿遷座祭執行す
昭和二十八年	一九五三	本殿・拝殿の屋根修理工事着手につき、奉告祭を執行す
昭和二十八年	一九五三	本殿・拝殿の屋根修理工事完了す
昭和三十九年	一九六四	屋根葺替工事のため仮遷座祭を執行す
昭和三十九年	一九六四	屋根葺替工事完了につき、本殿遷座祭を執行す ※檜皮葺より現在の銅板葺に改める

新授与品『神水(しんすい)守(まもり)』

沖津宮・中津宮・辺津宮、宗像大社三宮それぞれの御神水を封入した御守り、『神水守』を新年に合わせ奉製した。

海で繋がる三宮と、砂浜を連想するように砂が入っている。

平素、禁忌により一般の渡島を許さない沖ノ島。唯一、持出しを許される御神水。参拝出来ない沖津宮の御神威を感じることが出来る唯一の御守りです。

◆初穂料　一体　一、〇〇〇円

◆沖津宮・中津宮・辺津宮の三種類

第677回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切

沖ノ島昇る太陽海染めて世界遺産の初春祝ふ　秋吉　嘉範

新年を寿ぐ歌。初句字余りだが〈～に〉三句〈海を染め〉と助詞を入れ語調を滑らかに。

結び目がいまだほどけぬ赤い糸深爪こわい軒先の縁　早川　祥三

取り合わせが魅力的だがよく分からない歌。夫婦円満で、怖い物は深爪くらいという意味と読んだ。

森へ飛ぶカラスの片羽根光りをり立冬すぎの朝日をあびて　佐々木和彦

目の良い作者だと感心した。鴉の羽根の一瞬の光を捉えた景と季節の取り合わせが絶妙。

世界遺産の大社参拝かしこみて思はずなしぬ　山﨑　公俊

八禮八拍は伊勢神宮の参拝法だが、宗像大社を大切に思うあまり思わず八禮してしまった作者だろう。

薄皮に種を守りて命継ぐふうせんかずらの小さき葉と茎　萩原　勉

風船かずらをよく見ている作者。結句は葉か茎一つに絞って「針金の茎」などとしては。

傘寿きて残る命をみはかれば衣類はもはや足りあまるらむ　北野カズミ

終活には早い作者。三句以下〈計るときすでに衣類は足ると思へり〉と簡潔にしてみた。

補聴器を捜しいる間に連ドラはでは又来週とコマーシャルに入る　森　龍子

作者のため息が聞こえそうな一首だが、そこにユーモアがある。結句は〈終ってしまう〉。

ディケアで「二十四の瞳」を見る無心の島の児らのいとしも　山本　静子

映画の中の子供達を愛おしく思う作者の柔らかな感性。

裏庭の皇帝ダリア南へと顔を揃えて今咲き誇る　本田エリナ

花を沢山付けた皇帝ダリアを擬人化した歌。結句は少し抑えて〈今咲き盛る〉くらいに。

掃き下る参道半ばの置き去りの竹帚にも銀杏散る散る　吉崎美沙子

景が見える歌。三句から〈置き去りの箒のうえに公孫樹散る掃きくだりゆく参道半ば〉と上句下句を入れ替えては。

晴天の南京はぜの紅映す池のほとりをゆっくり歩く　大和美由紀

静かな鏡のような池の面。南京はぜの色の華やぎは作者の気持ちの明るさでもあるのだろう。

◆選者詠

掛ける、賭ける同音異義語多けれど〈かける〉と打ちて×（バツ）をい出せり

砂浜にうちあげられし貝あまたよき律をもつ曲線えがく

第649回　俳句

玉砂利にどんぐり拾う二つ三つ　早川　祥三

御造営奉賛者御芳名

（平成二十九年十一月）（順不同・敬称略）

三〇〇、〇〇〇円

福岡市　溝江　将光
北　区　鈴木　義治

一〇〇、〇〇〇円

北　区　鈴木　嘉子
北　区　鈴木　裕子
北　区　鈴木　良一

八〇、〇〇〇円

広島市　山田　隆徳

五〇、〇〇〇円

糸島市　松岡　功

四〇、〇〇〇円

宗像市　篠原　武利

三〇、〇〇〇円

金沢市　梶谷　眞理

一〇、〇〇〇円

春日井市　村井　聖
佐賀市　古賀　久貴
築上郡　入江聖奈子・美羽
釧路市　藤田　幸恵

六、〇〇〇円

津　市　樋口美智子

五、〇〇〇円

名古屋市　福岡智恵美
名古屋市　丸山　英志
名古屋市　島井　薫
十和田市　小原　照子
茨木市　村上　理恵
交野市　山内　文孝
島尻郡　大城伊輝子
那覇市　仲村ひさ子
川崎市　平瀬　資宏
横浜市　坂本　信
上天草市　桑原　千知
八代市　深川信宏・美希
熊本市　内山　裕子
熊本市　内山　直美
熊本市　内山　露美
熊本市　内山　龍起
熊本市　福冨　悦子
札幌市　内田　英二
千葉市　加藤　拓
江戸川区　彦田　昇孝
江戸川区　関口　光子
品川区　舟橋伊都子
北安曇郡　高良圭妃子
福岡市　中村　吉勝
福岡市　山口ヤエ子
周南市　下川　浩司

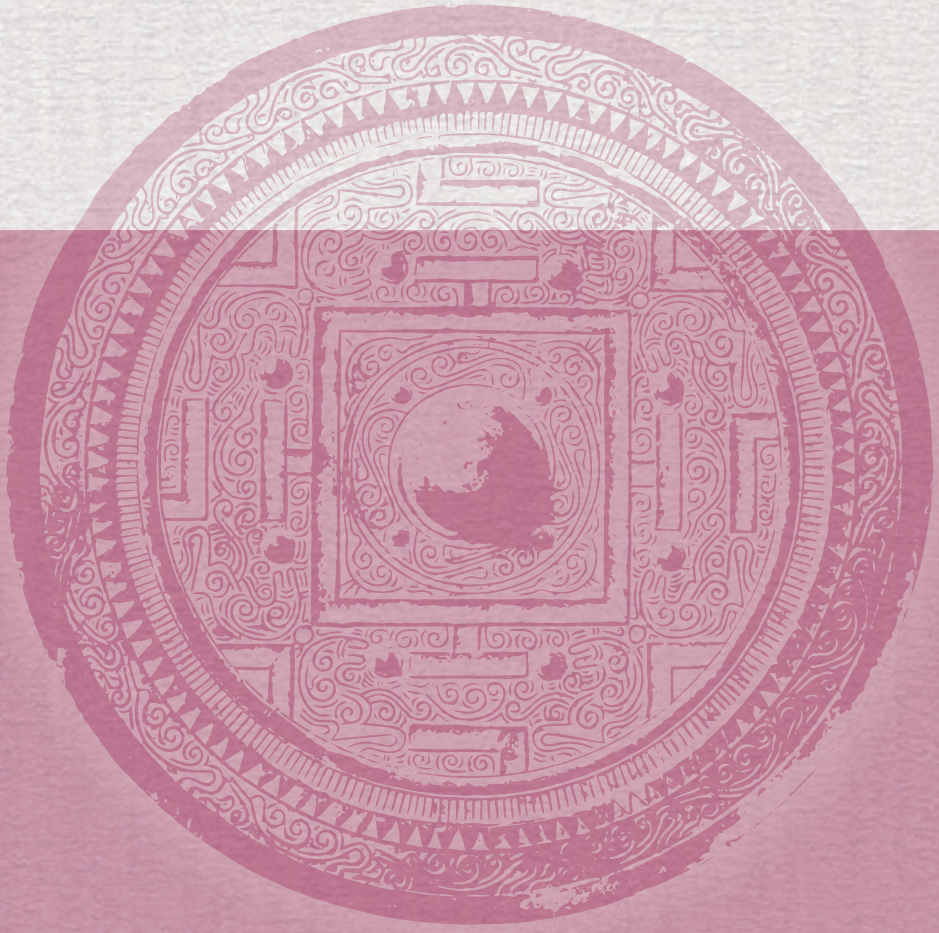
三、〇〇〇円

大阪市　福地　昭義
福岡市　山﨑惠美子

二、〇〇〇円

名古屋市　升森　宏次
大阪市　木村　有吾
大阪市　木岡　一明
箕面市　山田　和裕
大牟田市　阿志賀初代
糟屋郡新　林下　賢一
八幡市　成影　明代
阿蘇市　立石　佳江
戸田市　鈴木　百江
杉並区　堀内千寿香
杉並区　槻木久美子
目黒区　佐竹　佳子
生駒市　豊崎　倫臣
橿原市　石井あゆみ
柳井市　松田　真雄

むなかた
睦月（むつき） 第683号
2018年1月1日発行（月刊）／宗像大社　〒811―3505　福岡県宗像市田島2331　電話（0940）62―1311（代）　http://www.munakata-taisha.or.jp/



1月 まつりごよみ

1日	歳旦祭	午前９時
3日	元始祭 引続き　高宮、第二宮第三宮新年祭 宗像護国神社新年祭	午前９時 午前10時
10日	恵比須祭	午前10時
13日	献米奉告祭	午前11時
15日	総社月次祭併成人祭 引続き　高宮祭、第二宮第三宮祭	午前11時

編集後記

戊戌（つちのえいぬ）、皇紀２６７８年▼新年明けましておめでとうございます▼正月は門松などを準備し「歳神様」をお迎えし、初詣で一年の幸福・健康等を祈る▼一年のなかで唯一家族団らんの時を過ごすという方も大勢いらっしゃるかと存じます▼「一年の計は元旦にあり」という故事があるように、本年は一年の計画を立て有意義な時間を過ごしたい▼みなさまも一年の計画を立ててみてはいかがでしょうか▼本年も社報むなかたをよろしくお願いいたします。（黒）

宗像大社